

ユーザーマニュアル





ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所(結露するような場所)
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所(湿度95%以下の環境でご使用ください)
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所(静電気障害の原因になります)
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

.

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、 コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。





清掃するときは電源を切った状態で

お手入れには次のものは使わないでください ・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん (化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。)





ご注意

本書の中に含まれる情報は、弊社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであ り、弊社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。 弊社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。 また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright ©2001 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOM は、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoftの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、

各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準 に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波 妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ず るよう要求されることがあります。

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM MBM01 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

本製品はCentreCOM MBRK16-10/80に搭載されたメディアコンバーターモジュー ル(MBMC115B など)の設定や診断を行うためのマネージメントモジュールです。

前面パネルにRS-232ポートと10BASE-Tポートをそれぞれ一つずつ装備しており、 内蔵ソフトウェアに簡単にアクセスすることができます。また、SNMP(簡易ネット ワーク管理プロトコル)による管理が可能なSNMPエージェントにより、SNMPマ ネージャーから各種情報を監視・設定することができます。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方 法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保 証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2001年 10月 Rev.A 初版

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン

アイコン		意味
	ヒント	重要な情報や指示を示します。
	注意	人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
参照	参照	参照ページ・参照項目を示します。

製品名

製品名の「CentreCOM/CentreNET」は明示の必要の無い場合は省略して表記します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

この章では、本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 基本操作

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの 設定方法、メニューの操作について説明しています。

3 マネージメントメニュー

この章では、ソフトウェアの管理機能と設定内容についてメニュー項目ごとに説明しています。

4 付録

この章では、ソフトウェアのバージョンアップ手順、トラブルシューティング、オプションの拡張モジュールの仕様と装着手順、製品仕様について 説明しています。

5 保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書 のご記入方法について説明します。 5

4

	安全のために	. ii
	ご注意	iv
	商標について	iv
	電波障害自主規制について	iv
このマニュ	ι アルについて	V
	表記規則	vi
	マニュアルの構成	vii
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

1 はじめに

2-1

梱包内容
各部の名称と働き1-3
前面パネル
設置と接続 1-5
MBRK16-10/80 への取り付け1-5
ターミナルポートの接続1-7
10BASE-T ポートの接続1-8

2 基本操作

1	ログイン方法	
	ローカルセッション	
	Telnet セッション	
2	ターミナルソフトの設定	2-3
	VTTERM の設定手順	
	「ハイパーターミナル」の設定手順	
3	Telnet でログインする	
	「TELNET」の設定手順	
4	メニューの操作方法	

<u>3 マネージメントメニュー</u>

3-1

1	メニュー項目	3-2
2	モジュール設定	3-3
	モジュールステータスの表示	
	モジュールコンフィグレーション	
3	システム管理	3-8
	ソフトウェアのアップグレード(XModem)	
	Ping テスト	
	アクティブモニター	
	ログ保存の開始 ・ 停止	
	システム診断	
	マネージメントモジュールリセット	3-16

4	システム設定	
	Omega Options メニュー	
	IP パラメーター	
	Trap パラメーター	
	ターミナル設定	

4 付 録

4-1

1	バージョンアップ手順	
2	デフォルト設定	
3	ポート設定切替スイッチの設定	
4	トラブルシューティング	
	セルフテストについて	4-11
	トラブルと思ったら	4-12
5	SNMP MIB 仕様	
	対応 MIB OBJECT 一覧	4-14
	Trap 一覧	4-15
6	仕様	
	コネクター / ケーブル仕様	4-16
	本製品の仕様	4-17

5 保証とユーザーサポート

5-1

1	保証とユーザーサポート	
	保証	
	ユーザーサポート	
2	調査依頼書のご記入にあたって	
	使用しているハードウエアについて…	
	お問い合わせ内容について	
	ネットワーク構成について	
調査	依頼書(CentreCOM MBM01)	

はじめに

この章では、本製品の梱包内容、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれま す。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管 してください。

1

2 各部の名称と働き

前面パネル



10BASE-Tポート

UTPケーブルでスイッチなどを接続し、ネットワークを経由してアクセスする ためのポートです。このポートの通信モードは Half Duplex です。 このポートのデフォルト設定は MDI-X です。

10BASE-T ポート LED 10BASE-T ポートのリンク状況を表示します。

ターミナル(RS-232)ポート RS-232 ケーブルで、コンソールを接続するためのポートです。

STATUS LED 内蔵ソフトウェアの状況を表示します。

POWER LED 電源の供給状態を表示します。

RESET ボタン 本製品の設定をリセットするためのボタンです。



MBMC115Bの設定はリセットされません。

拘束ネジ 専用ラック(MBRK16-10/80)に固定するための拘束ネジです。

各部の名称と働き

LED

2

本製品の状態を表示します。

LED		色	状態	表示内容	
POWER		緑	点灯	電源がMBRK16-10/80に正しく接続され、MBM01へ正常に供給されています。	
			消灯	MBRK16-10/80または、MBM01へ正常に電源が供給されてい ません。	
		緑	点灯	MBM01本体、またはソフトウェアが正常に動作しています。	
STATUS		橙	点灯	セルフテストを実行中です。	
			点滅	ソフトウェアのダウンロード中です。	
		赤	点灯	MBM01本体、およびソフトウェアに異常があります。	
COL 黄 点滅 コリジョンが発生しています。		コリジョンが発生しています。			
10BASE-T	RX	緑	点滅	10BASE-Tポートがパケットの受信を行っています。	
	LNK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。	

MBRK16-10/80 への取り付け

- 1. MBRK16-10/80の電源ケーブルを抜いてください。
- 2. MBRK16-10/80前面のMBM01専用スロット(右端)のカバーパネルの拘束ネ ジを緩めて、カバーパネルをはずしてください。



本製品は、静電気に非常に敏感な部品を使用しています。静電気によって、電子部品が損傷する恐れがありますので、取り扱いの際は、アースストラップを使用するなどの静電防止対策をして、ボード部分にできるだけ手を触れないようにしてください。 また、保管するときは、本製品が梱包されていた静電防止袋に入れて、静電気

のある場所を避けてください。

▶ カバーパネルは本製品を装着するとき以外ははずさないようにしてください。

設置と接続

本製品のボード部分をスロットのボードガイドにそって差し込んでください。
 本製品の前面パネルがMBRK16-10/80の前面パネルの位置とそろうまで押し込んでください。



3

このとき、ボード部分には手を触れず、前面パネルを持って取り付けを行って ください。



4. 本製品の拘束ネジを締めてください。

ターミナルポートの接続

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、付属のRS-232ケー ブルで、本製品のターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクターを接続し てください。

コンソール

コンソールはVT-100互換のターミナルエミュレーターを実行するRS-232コネク ター付きのコンピューター、またはRS-232コネクター付き非同期ターミナルをご 使用ください。

ケーブル

ケーブルは本製品に付属のRS-232ケーブルをご使用ください。



はじめに

10BASE-T ポートの接続

10BASE-T ポートを接続することにより、ネットワークを経由して、内蔵ソフト ウェアにアクセスすることができます。

1. カテゴリー3以上のUTPケーブル(ストレート)を10BASE-Tポートに接続してください。



- 接続先の機器の設定を本製品の通信モード(10Mbps/Half Duplex)と接続可能 な通信モード(オートネゴシエーション、または10Mbps/Half Duplex)に合 わせてください。
- 本製品の10BASE-Tポートには内部にカスケード切替スイッチが付いていま す。本製品をMBRK16-10/80へ取り付ける前に、接続先の機器に合わせて 設定してください。



本製品とコンピューターを接続する場合 MDI-X(デフォルト設定) 本製品とリピーターやスイッチを接続する場合 MDI

MDIに設定する場合はスイッチを押し込んでください。再度、スイッチを押すと、MDI-Xに戻ります。

2

基本操作

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフト ウェアの設定方法、メニューの操作について説明しています。

ログイン方法 1

本製品に内蔵されているマネージメントソフトウェアにアクセスするには次の2通 りの方法があります。どちらの方法も同じマネージメント機能を使用できます。

ローカルセッション

本製品のターミナルポートとターミナルエミュレーションソフトウェアをインストー ルしたコンピューターを直接接続してマネージメントを行う方法です。

Telnet **セッション**

本製品の10BASE-Tポートを使用し、Telnet接続でネットワークを経由してマネー ジメントを行う方法です。



Telnet接続を行うためには、あらかじめIPアドレスとサブネットマスクを ローカルセッションで設定しておく必要があります。



マネージメントソフトに同時にアクセスできるターミナルの数は、ローカル セッション、Telnetセッションあわせて1台のみです。

2 **ターミナルソフトの設定**

コンピューターをターミナルとして使用するためのターミナルエミュレーション・ソ フトウェアとして、次の2つの設定方法を説明します。 (コンソール用 RS-232 ストレートケーブルは、COM1 に接続することとします。)

弊社 VTTERM

Windows 95/98/Me/2000、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」

VTTERM の設定手順

弊社VTTERM(VT-Kit)をご使用の場合は、DOSプロンプトから次のコマンドを入力して、Enterキーを押してください。

C: X > VTTERM

VTTERMが起動し、初期画面が表示されます。 VTTERMのデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設 定をする必要はありません。

Enterキーを押すと、内蔵ソフトウェアのメインメニューが表示されます。

「ハイパーターミナル」の設定手順

Windows 95/98/Me/2000、Windows NT が動作する PC やワークステーション では、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーター ミナル」(Hypertrm.exe)を使用することができます。

- Windows Meでは「ハイパーターミナル」をあらかじめインストールしてお く必要があります。[スタート]メニューから[設定]->[コントロールパネ ル]で「コントロールパネル」を開いてください。「アプリケーションの追加と 削除」をダブルクリックし、[Windowsファイル]タブのリストから、[通信]を選 択し、[詳細]ボタンをクリックしてください。[通信]のリストの[ハイパーターミ ナル]のチェックボックスをオンして、[OK]ボタンをクリックしてください。[通 信]ダイアログボックスが閉じます。ここでさらに[アプリケーションの追加と 削除]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックしてください。これで「ハ イパーターミナル」がインストールされます。
- ハイパーターミナルを起動してください。
 Windows 95の場合-[スタート]メニューから[プログラム]->[アクセサリ]->[ハイパーターミナル]を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe」をダブルクリックして起動してください。
 Windows 98/Me/2000の場合 -[スタート]メニューから[プログラム]->[アクセサリ]->[通信]->[ハイパーターミナル]を選択して、起動してください。
 Windows NTの場合 -[スタート]メニューから[プログラム]->[アクセサリ]->[アクログラム]->[アクセサリ]->[アクセサリ]->[アクセサリ]->[アクログラム]->[アクセサリ]->[アクセサリ]->[アクセサリ]->[アクセサリ]->[アクログラム]->[アクログラム]->[アクセサリ]-

> [ハイパーターミナル] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動してく ださい。

- 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK]ボタンをクリックしてください。
 モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ]をクリックしてください。
- 接続方法を設定してください。
 Windows 95の場合 -「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
 [接続方法]の欄で、[COM1へダイレクト]を選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。
 Windows 98/Me/2000の場合 -「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
 [接続方法]の欄で、[COM1へダイレクト]を選択して、[OK]ボタンをクリックしてください。

2

Windows NTの場合-「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。 [ポートの設定]タブの[接続方法]の欄で、[COM1]を選択して、[OK]ボ タンをクリックしてください。

4. 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK]をクリックしてください。

COMIのプロパティ ボートの設定	(* ×
E91-/83(B): 9600	
データ ピット(D): [8	
1約ティビミ なし	
ストップ ピット(S): 1	-
20~刺繍(E): なし	×
[[#詳細訳(定(A)]]	既定像に戻す(B)
ОК	キャンセル (道田(石)

5. 「XXXX-ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが 表示されます。

[ファイル]メニューの中から[プロパティ]を選択すると、「XXXXのプロパ ティ」ダイアログボックスが表示されます。

[設定]タブを選択し、下図のように設定して、[OK]をクリックしてください。

200000プロパティ 21×
接続の設定 設定
ファンクションキー、方向キー、Otrl キーの使い方
④ ターミナル キー(①) ○ Windows キー(④)
- BackSpace キーの使い方
Ctrl+HQ) ⊂ Delete(D) ⊂ Ctrl+H, スペース, Ctrl+HKH
エミュレーション(国)
VTT00 <u>ターミナルの</u> 設定(S)_
Telnet ターミナル ID (N): VT100
バッファの行動(目): 500 二
□ 「接続/切断時に音を3回聴らす(P)」
エンコード方法(中 ASCII 設定(A)
OK キャンセル

ターミナルソフトの設定 2

以上で、設定が終わりました。

[mer]キーを押すと、内蔵ソフトウェアのセッションが開始され、メインメニューが表 示されます。

本製品はオートボーレート機能を備えています。「ターミナル」画面から、Enter キーを押すことによって、本製品のボーレートが自動的に設定されます。



ソフトウェアのセッションを終了させる場合は、[メインメニュー]から [Quit] を選択し、実行してください。

[Quit]を実行してセッションを終了させないと、リモートからの接続やソフ トウェアのダウンロードができなくなります。

ログイン後にMBM01を起動した場合は、最初に以下のメッセージが表示されます。

BOOT

RAM Test....OK

Hit any key to run diagnostics or reload system software...

約5秒後、メインメニューが表示されます。

3 Telnet **でログインする**

本製品はTelnetサーバーを内蔵しているため、他のTelnetクライアントからネット ワーク経由で、ログインすることができます。

ここでは、Windows 95/98/Me/2000、Windows NT標準Telnet アプリケーション 「TELNET」の設定方法を説明します。



Telnetからログインする場合は、本製品にIPアドレスが設定されている必要 があります。あらかじめコンソールからIPアドレスを設定しておいてください。

参照 3-24 ページ「IP パラメーター - Ip address」

「TELNET」の設定手順

Windows 95/98/Me/2000、Windows NTは、TCP/IPプロトコルを実装していま すので、Windows 95/98/Me/2000、Windows NT が動作するコンピューターで は、標準 Telnet アプリケーション「TELNET」(Telnet.exe)が使用できます。

1. ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行ってください。

Windows 95の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開いてください。 「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから [TCP/IP]を選択して[プロパティ]ボタンクリックして、設定してください。

Windows 98/Meの場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネ ル]で「コントロールパネル」を開いてください。 [ネットワーク]をダブルクリックし、[ネットワークの設定]タブのリストから [TCP/IP ->(ご使用のアダプター)]を選択して[プロパティ]ボタンをクリックし て、設定してください。

Windows2000の場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開いて、[ネットワークとダイアルアップの接続]を ダブルクリックしてください。

[ローカルエリア接続]を右クリックして[プロパティ]ボタンをクリックして、設定してください。

3 Telnet **でログインする**

Windows NTの場合 - [スタート]メニューから[設定] ->[コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開いて、「ネットワーク」をダブルクリックし、[プ ロトコル]タブのリストから、[TCP/IPプロトコル]を選択して[プロパティ]ボタ ンをクリックして、設定してください。

 Telnet を起動してください。
 Windows 95/98/Me/2000の場合 - 「エクスプローラ」から[Windows (WINDOWS)]フォルダ内の「Telnet.exe(TELNET.EXE)」をダブルクリックして、「Telnet.exe(TELNET.EXE)」を起動します。

Windows NTの場合 - 「Windows NTのエクスプローラ」から、[WINNT] -> [system32]フォルダ内の「telnet.exe」をダブルクリックして、「telnet.exe」 を起動してください。

 [ターミナル]メニューから[設定]を選択すると、[ターミナルの設定](基本選定の 変更)ダイアログボックスが表示されます。
 [エミュレーション]欄で[VT-100/ANSI]ラジオボタンをクリックしてください。

基本設定の変更			×
サージル オフション 〒 ローカル エコー(E) 〒 カージルの 点減(E) 〒 フロック カージル(L) 〒 VT-100 Arraws(<u>V</u>)	LEalレーション C VT-52 C VT-100/漢字 F VT-100/ANSI	漢字コードセット の JIS 漢字 の 975 JIS の 日本法EUU	0K ++>156 ^\$7(H)
<i>ハ*977 サイス*(<u>8</u>):</i> 25	7#汁の指定(1)	背景色(L)	

4. [接続]メニューから[リモートシステム]をクリックすると、[接続]ダイアログボッ クスが表示されます。

[ホスト名]欄に、あらかじめ設定しておいた本製品のIPアドレスを入力して、 [接続]をクリックしてください。

接続		×
ホスト名(日):	1901682001	¥
木"(P):	teinet.	-
ターミナルの種類(工):	ve100	Ŧ
接続©	79286	

以上で、設定が終わりました。セッションが確立し、内蔵ソフトウェアのメインメ ニューが表示されます。 メニュー画面の操作方法を説明します。

ソフトウェアにアクセスすると、次のようなメインメニュー画面が表示されます。

るXXXX-A/A ⁻ A-3+34 アバルビ 単葉取び 表示型 通信回 48년の ヘルプロ 	미즈
	14
Allied Telesis CentreCOM MENO1: 1.2.0J	Ľ
Main Menu	Ľ
Module status and configuration	Ľ
Administration	Ľ
System configuration	Ľ
REFE	E
	Ľ
	E
	Ľ
	Ľ
	Ľ
	E
	Į.
HIE ODS 35 DIMMES HOU I-N-1 SCROLL CARS NUM Pro- II-400	1

画面表示

現在「使用可能」(Enabled)に設定されているオプションには、「>」マークがついています。

選択されたオプションは、ハイライトで表示されます。

オプションを選択する

選択するオプションの頭文字を入力(大文字、小文字の区別無し)してハイライト表示させ、Emerキー押してください。

同じ頭文字を持つオプションが2つ以上ある場合は、頭文字を複数回入力して目的 のオプションをハイライト表示させてください。 または、①(上)と①(下)の方向キーを使用して、選択するオプションをハイライト表示させて、Enterキーを押してください。(アプリケーションによっては、この操作方法が使用できない場合があります。)

選択するオプションがハイライト表示されたら、Enterキー押してください。

ポート番号など数字のオプションは、数字を入力して、ハイライト表示させ、Enter キー押してください。

数字や名前を入力・削除する

オプションを選択し、Enter キーを押して「->」プロンプトを表示させます。「->」プロンプトの後に数字や名前を半角英数字入力して、Enterキー押してください。 数字や名前を削除する(Nullに設定する)場合は、「->」プロンプトの後に(現在設定されている数字や名前の上から)(スペース)を入力して、Enterキーを押してください。 アドレスを削除する場合は、「0.0.0.0」と入力して、Enterキーを押してください。

画面移動

前の画面に戻る場合は、画面一番下の[Return to ~]オプションを選択するか、Esc キー押してください。

設定の終了

セッションを終了する場合は、メインメニュー画面の[Quit]を選択し、Enterキーを押し てください。この操作によってセッションを終了させるまで、他のターミナルから のアクセスが拒否されます。

3

マネージメントメニュー

この章では、ソフトウェアの管理機能と設定内容についてメ ニュー項目ごとに説明しています。

1 メニュー項目

本製品のメニューは次のような構成になっています。 各項目の機能と設定の方法をメインメニュー画面の上から順に説明していきます。

- 2 モジュール設定 -Module status and configuration 各ポート・モジュールのステータス表示や設定を行います。 オートネゴシエーション機能、ミッシングリンク機能の有効・無効、モジュール名の 変更などのオプション設定やポートの接続テストが可能です。
- 3 システム管理 Administration システム管理のための設定や情報の表示を行います。 ソフトウェアのダウンロード、Pingテスト、動作(アクティブ)モニター、履歴情報の保存、システム診断、システムリセットなどのオプションがあります。
- 4 システム設定 -System configuration
 システムの基本的な設定を行います。
 システム名や日付・時刻、IPパラメーター、Trapパラメーター、ターミナル設定などのオプションがあります。

メニュー項目の一覧



モジュールステータスの表示

Module Status and Configuration Menu

モジュールごとの現在のステータスを表示します。

[Main Menu] -> [Module status and configuration]と進み、「Module status and configuration Menu」画面を表示します。

	Module stat	us and configuration Menu	
Nodule 1: MBMC115B 2: MBMC115B 3: MBMC115B 4: MBMC115B 5: MBMC115B 6: MBMC115B 8: MBMC115B 9: MBMC115B 0: MBMC115B 1: MBMC115B 2: MBMC115B 3:(Not inserted) 4:(Not inserted) 5:(Not inserted) 6:(Not inserted) 6:(Not inserted) 7: MBM01 Beturn to Main	Link(UTP) Online Online Online Online Online Online Online Online Online Online Offline Offline Offline Offline Offline	Link(Optical) Online Online Online Online Online Online Online Online Online Online Offline Offline Offline	

Module

モジュール名を表示します。

モジュールを装着していないスロットは(Not inserted)と表示され、選択できません。

Link(UTP)

それぞれのモジュールの100BASE-TXポートの接続状態を表示しています。

Link(optical)

それぞれのモジュールの100BASE-FXポートの接続状態を表示しています。

Module Configuration Menu

選択したモジュールのオプション設定を行います。

[Main Menu]->[Module status and configuration]と進み、モジュール番号を 選択して、「Module Configuration Menu」画面を表示してください。 各オプションを上から順に説明します。

Module: CentreCOM	Modul Mo NBMC115B	le Configura odule 6 - MB	tion Menu NC1158	
Port A(100BaseTX) B(100BaseFX)	Link Online Online	Speed 100M 100M	Duplex Full Full	
Module name	- 11-1			
> Enable Missing	g link link			
Link test(at m Loop back test	issing link m (get link par	ode) rtner status)	
Return to Modu	le status a <u>n</u> d	configurati	on Menu	

Port Configuration Menu [Port A(100BASE-TX]を選択して、次の画面を表示してください。



オートネゴシエーションの有効・無効を選択してください。 デフォルトは各MBMC115Bのポート設定切替スイッチの設定を読み出して使用し ます。

▶ MBMC115Bの動作中はポート切替設定スイッチの変更は無効です。

●照 4-10 ページ「ポート設定切替スイッチの設定」

ホートBはオートネゴシエーション設定不可能であるため、選択できません。

Module name

モジュール名を設定してください。

各モジュールに接続先のホスト名や場所の名前を割り当てると、ポートを管理するのに便利です。デフォルトは「Nul(空白)」です。

モジュール名の設定

- 1. 「Module name」を選択して既存のモジュール名をハイライト表示してください。
- 2. Enterキーを押して「->」プロンプトを表示してください。
- 3. 「->」プロンプトに続けて20文字までの半角英数字を入力し、Enterキーを押して ください。

モジュール名の削除

1. 「Module name」を選択して既存のモジュール名をハイライト表示してください。

2. 既存のモジュール名の上から (スペース)を入力し、Enterキーを押してください。

モジュール名の設定は、すぐに画面に反映されます。「Module configuration Menu」 画面の中央のポート番号の右側に、設定した名前が表示されます。(削除した場合は、 各モジュールの製品名が表示されます。)

また、「Module status and configuration Menu」画面のモジュール番号の右側に も、設定した名前が表示されます。(削除した場合は、各モジュールの製品名が入り ます。)

「17: MBM01 モジュールのオプション画面ではこの項目のみ設定可能です。

Disable Missing link / Enable Missing link

ミッシングリンク機能の有効・無効の表示、設定をします。

ミッシングリンク機能を有効にすると、一方のポートのリンクが切断された場合、も う一方のポートのリンクを自動的に切断します。

デフォルトは各MBMC115Bのポート設定切替スイッチの設定を読み出して使用し ます。

MBMC115Bの動作中はポート設定切替スイッチの変更は無効です。

●照 4-10 ページ「ポート設定切替スイッチの設定」

Link test (at missing link mode)

ミッシングリンク機能を「Enable」に設定した場合に、100BASE-TX ポートと 100BASE-FX ポートのリンクの有無をそれぞれ独立して表示します。



ミッシングリンク機能を「Disable」に設定した場合は、このオプションは表示 されません。 Loop back test

[Loop back test]を選択して、次の画面を表示してください。

対向メディアコンバーターとの間でLoop back testが実行され、正常終了の際は取得された情報(Link, Speed, Duplex)が表示されます。

************************************	転送田 ヘルプロ			_ D X
	Loop back	test link	partner status	
Module: Remote	Mo	dule 6 - MB	NC1158	
Port A(10/100BaseTX) B(100BaseFX)	Link Online Online	Speed 100M 100M	Duplex Full Full	
Return to Module	Configurati	on Menu		
编模 01325 唐朝林校士 9600 8-N-1	I BCROLL J	NUM Pre-	コーを印	

Loop back test が正常に行われなかった場合、以下の画面が表示され、失敗要因が Result code として表示されます。



Result code 01

当該メディアコンバーターモジュールの光ポートのリンクが確立されていないため、 Loop back testの実行が不可能。

Result code 02 ループバックテストフレーム受信タイムアウト

3 システム管理

[Main Menu]->[Administration]と進み、「Administration Menu」画面を表示し てください。



この画面では、[Administration]のメニューオプションが表示されます。 各メニューオプションを上から順に説明します。
ソフトウェアのアップグレード(XModem)

XModem software update to the MBM01

XModemによるMBM01のマネージメントソフトウェアのアップグレードを行いま す。現在使用しているターミナルエミュレーション・ソフトウェアがファイル転送機 能をサポートしていることを確認してください。



ソフトウェアのダウンロード中は、本体からRS-232ケーブルを抜かないでく ださい。

1. [Main Menu] -> [Administration] -> [XModem software update to the MBM01]と進み、次の画面を表示してください。

(このメニューオプションは、コンソールからローカル(RS-232経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合のみ表示されます。)



XModemによるダウンロードを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。実行する場合は

 ※
 、実行しない場合は

 ※
 、を入力すると、前の画面に戻ります。

システム管理

3

- 3. 図を入力すると、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。
- PQ(ワークステーション)から、ファイルを転送してください。 プロトコルタイプは「Xmodem」を選択してターミナルソフトウェアのファイ ル送信を実行してください。(ファイル転送の手順については、使用している ターミナルソフトウェアのマニュアルなどをお読みください。) ファイル転送が正常に終了すると、「XMODEM transfer has successfully completed.」のメッセージが表示されて、システムが自動的にリセットされま す。

- セルフテストが終了したらEnterキーを押して、メインメニューに戻ってください。
- 不具合が発生するなどしてダウンロードが失敗した場合は、本体前面の RESETボタンを押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセット してください。

「Hit any key to run diagnostics or to reload system software...」と 表示されている間に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー (System Diagnostics)を表示します。図を入力して[X: XMODEM download updated System Sofware]オプションを選択し、再度ソフト ウェアのダウンロードを行ってください。

Ping テスト

Ping a remote system

Pingプログラムを使用して、ネットワーク上の他のシステムの通信テストを行います。指定したシステムに対して、ICMPエコーリクエストを送信します。

他のシステムへの Ping テスト

1. [Main Menu]-> [Administration]-> [Ping a remote system]と進み、次の画面を表示してください。



2. Ping テストの対象となるシステムを IP アドレスで指定してください。

画面に表示されている入力方法に従って、「->」プロンプトに続けて半角英数字 を入力し、Enterキーを押してください。 すぐにICMPエコーリクエストの送信が開始されて、結果が画面表示されます。 Enterキーを押すと、PINGテストが停止されます。さらにEnterキーを押すと、前 の画面に戻ります。 アクティブモニター

Activity monitor

保存された動作状況の変化やエラー情報などの履歴を参照することができます。

アクティブモニターの表示

[Main Menu]->[Administration]->[Activity monitor]と進み、次の画面を表示 してください。



表示内容は、以下の情報を示しています。

項目	表示形式	説明	
ポートリンク状態の変化	D:H:M:S Mx-Py Port is online	My, 포ジー 비중모 Dy, 분 비중모*	
	D:H:M:S Mx-Py Port is offline		
エジュールの時時	D:H:M:S Mx Insertion	Mx:モジュール番号	
モジュールの弾派	D:H:M:S Mx Removal		
ファンの回転停止検出	D:H:M:S Fx Stop	Fx:ファン番号	
ファンの回転停止回復	D:H:M:S Fx Recover	Fx:ファン番号	
温度の監視	D:H:M:S Over-Temp		
Loop back testの実行	D:H:M:S Mx LBTest-y	Mx:モジュール番号、y:テスト結果	
Link testの実行	D:H:M:S Mx LKTest-y	Mx:モジュール番号、y:テスト結果	
	D:H:M:S MBM01 CStart	Cold Start	
	D:H:M:S MBM01 WStart	Warm Start	
	D:H:M:S Mx Set-A	Mx:モジュール番号、オートネゴシエーション設定	
	D:H:M:S Mx Set-F	Mx:モジュール番号、固定設定	
MBMCT15B00設定友史	D:H:M:S Mx ML-D	Mx:モジュール番号、ミッシングリンク機能: Disable	
	D:H:M:S Mx ML-E	Mx:モジュール番号、ミッシングリンク機能: Enable	
Dingテフトの宝行は田	D:H:M:S xx.xx.xx yyms	IPアドレス:xx.xx.xxからyymsで応答	
FIIIgデス Fの美行結果 	D:H:M:S xx.xx.xx failure	IPアドレス:xx.xx.xxに対しタイムアウト	
TFTPアップロードの実行結果	D:H:M:S UL xx.xx.xx completed	IPアドレス:xx.xx.xxに対しアップロード完了	
	D:H:M:S UL xx.xx.xx ignore	IPアドレス:xx.xx.xxから不正なパスワード、ASCII モードによるアクセス	
	D:H:M:S UL xx.xx.xx timeout	IPアドレス:xx.xx.xxに対しタイムアウト	

PA: 100BASE-TXポート PB: 100BASE-FXポート

*

D:H:M:S は、マネージメントモジュールの起動時からの経過時間(日:時:分: 秒)を表します。

履歴の保存は、Start/Stop Log メニューで設定できます。

▶ 3-14ページ「ログ保存の開始・停止」

ログ保存の開始・停止

Start log/Stop log

[Main Menu] ->[Administration]画面のStart log/Stop log オプションで履歴情報 の保存の開始・停止を行うことができます。「Start log」選択後、「Stop log」選択 までの間の履歴情報が保存されます。

以下の情報が保存されます。

ポートリンク状態の変化 Online/Offline) モジュールの挿抜 ファン回転停止 ファン回転回復 システム内温度超過時 Loop back test の実行 Link test の実行 MBM01のブート状況 メディアコンバーターモジュールの設定状態の変更 Ping テストの実行結果 TFTP によるソフトウェアアップロード結果

保存された履歴情報は、アクティブモニターで参照できます。

参照 3-12 ページ「アクティブモニター」

履歴は最低でも1000件は保存されるようになっています。履歴情報の文字列 が短い場合には、1000件以上保存されます。保存範囲を超えた履歴は最も古 い履歴情報から削除し、新しい履歴を保存します。

システム診断

Diagnostics

システム診断テストの結果(Flash PROM、RAM、Serial Interface) およびセンサー による計測結果(システムの供給電圧、システム内温度、FAN 1・2の回転速度)を表 示します。

システム診断のテストの実行

[Main Menu]-> [Administration]-> [Diagnostics]と進み、次の画面を表示し てください。

後2000(-14(水-5-け)) 774(14日) 編集(日) 表示(10) 通信(10) 転送)	D ~1.769		_ D X
<u>DF 93 99 5</u>			
CentreCON WBNC Series			
MAC Address 0000F4 27110 AT-S38 Management Module	0 Software:	Version 1.2.0J B01 010817	
Running 3 minutes, 19 se	conds		
Diagnostic Results:			
Flash PROM RAM Serial Interface Main PSU: Redundant PSU:	Good Good Good Off On	System 5V power: Temperature(NGWT Nodule): Fan Speed #1: Fan Speed #2:	+ 5.07V + 41.0 C +3409rpm +3341rpm
Hit any key to continue			
編標 0.02:01) 唐朝林田 9600 8-N-1	SCROLL JCAPS	NUM (44- III-460	

診断結果の他に、次の項目を参照することができます。 ヘッダ部分:

> 製品名 MACアドレス ソフトウェア名とソフトウェアバージョン 最後にリセットしたときから現在までのシステムの稼働時間

「Diagnostic Results」の詳細については、以下を参照ください。

後照 4-10ページ「トラブルシューティング - セルフテストについて」



マネージメントモジュールをリセットします。

マネージメントモジュールリセットの実行

 [Main Menu] -> [Administration] -> [Reset and restart the system] と 進み、次の画面を表示してください(このメニューオプションは、ローカル (RS-232経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合のみ表示されます)。

aprox - n(A-0-174	. D ×
フィルビ 編集型 表示型 通信目 転送日 ヘルプロ	
<u> </u>	
Do reset MBM01 now? (Yes or No):	
Yes	
> No	
Return to Administration Menu	

2. 以下のオプションを選択します。

YES マネージメントモジュールをリセットします。

NO 前の画面に戻ります。

デフォルトは[No]で、リセットするたびにデフォルトに戻ります。

 マネージメントモジュールリセットを実行した場合、セルフテストが実行され、 その経過が画面に表示されます。最後に「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、Enterキーを押して、メインメニューに 戻ってください。



▶ 前面パネルの RESET ボタンで、本製品をリセットすることも可能です。

4 システム設定

[Main Menu]->[System Configuration]と進み、[System Configuration Menu]画面 を表示してください。

	System Configuration Menu	
System name	Null (not configured)	
Omega Options		
IP parameters		
Trap parameters		
Terminal configura	tion	
<u>R</u> eturn to Main Men	u	

この画面では、[System Configuration]の3つのメニューオプションと1つのオプ ションが表示されます。

各メニューオプションを上から順に説明します。

System name(システム名)

システム名を設定します。

デフォルトは「Null(空白)」です。

本製品には、各システムを識別する方法として、MACアドレス、IPアドレス(ユー ザーが設定)、システム名(ユーザーが設定)があります。

ダウンロードや他のシステムへの接続を誤って実行しないためにも、固有のシステム名を設定しておくことをお勧めします。

システム名の設定は、すぐに画面に反映されます。すべてのメニューの画面の最上行に、設定した名前が表示されます(削除した場合は、表示がなくなります)。

また、ここで設定した名称は、MIB-IIの <SysName> に反映されて、SNMP マネー ジャーで確認することができます。 システム名の設定

- [Main Menu]->[System Configuration]と進み、⑤を入力し、「System name」の入力フィールドにカーソルを移動してください。
- Enterキーを押して「->」プロンプトを表示してください。
 「->」プロンプトに続けて、20文字までの半角英数字を入力し、Enterキーを押してください。

システム名の削除

- [Main Menu] -> [System Configuration]と進み、⑤を入力して既存のシス テム名をハイライト表示してください。
- 2. Enterキーを押して、「->」プロンプトを表示してください。
- 3. 「->」プロンプトに続けて(すでに設定してある名前の上から) (スペース)を入力し、 Enterキーを押してください。

Omega Options メニュー

Omega Options Menu

Omega Optionsメニューでは、内蔵ソフトウェア(Omega)へのアクセスを制御する ためのセキュリティオプションを設定します。

[Main Menu]->[System Configuration]->[Omega Options]と進み、「Omega Options Menu」 画面を表示してください。



各オプションを上から順に説明します。

Password(ログインパスワードの設定) ソフトウェアにアクセスする際のパスワードを設定します。 デフォルトは「Nul(空白)」で、何も設定されていません。 パスワードを設定すると、メニューアクセス時に「Password ->」と表示され、パ スワードの入力を要求されます。

4 システム設定

ログインパスワードの設定

- 1. [Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options]と進み、 「Omega Options Menu」画面を表示してください。
- 2. Passwordの入力フィールドにカーソルを移動してください。
- Enterキーを押して「->」プロンプトを表示してください。
 「->」プロンプトに続けて20文字までの半角英数字を入力し、Enterキーを押してください。入力した文字は「*」で表示されます。大文字・小文字を区別します。

ログインパスワードの削除

- 1. [Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options]と進み、 「Omega Options Menu」画面を表示してください。
- を入力して「*」で表示されている既存のパスワードをハイライト表示してく ださい。
- 3. Enterキーを押して「->」プロンプトを表示します。
- 4. 「->」プロンプトに続けて、既存のパスワードの上から(スペース)を入力し、Enterキー を押してください。

セキュリティ保護のためパスワードは必ず設定してください。また、管理者は パスワードの管理・保護にご注意ください。

Timeout(タイムアウトの設定)

ソフトウェアセッションのタイムアウトを設定します。

デフォルトは 5(分)です。

タイムアウトは、設定した時間内にキー入力がない場合、セッションを自動的に終 了する機能です。

[Quit]オプションでセッションの終了を実行し忘れた場合に、そのマネージメント ステーションからの不当なアクセスを制御することができます。また、Telnetセッ ションや、ソフトウェアダウンロードのブロックを避けるためにも有効です。

タイムアウトの設定

- 1. [Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options]と進み、 「Omega Options Menu」画面を表示してください。
- 2. ②を入力して Timeout の入力フィールドにカーソルを移動してください。
- Enterキーを押して「->」プロンプトを表示します。「->」プロンプトに続けて0 ~ 32767(分)の半角数字を入力し、Enterキーを押してください。
 「0」(ゼロ)に設定した場合、この機能が無効となります。



▶ 無効にした場合、[Quit]を選択してセッションを終了させないと、リモートからの接続や、ソフトウェアからのダウンロードができなくなります。

ソフトウェアへのアクセス制限を設定します。

アクセス制限の設定

- 1. [Main Menu] -> [System Configuration] -> [Omega Options]と進み、 「Omega Options Menu」画面を表示してください。
- 2. 「Omega Options Menu」の次の2つのオプションを設定します。

Local Omega Enabled/Disable Local Omega

ローカル(RS-232 経由)でのアクセス制限を設定します。

デフォルトはLocal Omega Enabledです。設定はセッションを終了した後に有効となります。

Local Omega Enabled コンソールからローカル(RS-232 経由)でソフトウェアへアクセスできます。

Disable Local Omega コンソールからローカル(RS-232経由)でソフトウェアへアクセスできなくな ります。設定を変更する場合、リモート(Telnet経由またはSNMP)からソフト ウェアへアクセスしてください。

Remote Omega Enabled/No Remote Omega

リモート(Telnet 経由)からのアクセス制限を設定します。

デフォルトはRemote Omega Enabledです。設定はセッションを終了した後に有効 となります。

Remote Omega Enabled リモート(Telnet 経由)からソフトウェアヘアクセスできます。

No Remote Omega

リモート(Telnet 経由)からソフトウェアへアクセスできなくなります。 ただし、SNMPを使用してリモートからシステムを管理することは可能です。 設定を変更する場合、ローカル(RS-232経由)からソフトウェアへアクセスし てください。

システム設定



Telnet アプリケーションを使用して、リモートシステムへ接続しているときに、No Remote Omega オプションを選択しないでください。 万一、このような操作を行った場合はリモートシステムをリセットしてください。

Disable Local Omega と No Remote Omega の両方のオプションを選択 して、セッションを終了すると、ソフトウェアに再度アクセスすることができ なくなりますのでご注意ください。

万一、Disable Local OmegaとNo Remote Omegaの両方のオプション を選択してセッションを終了した場合は、SNMPを使用して設定を変更する か、システムを工場出荷時設定に戻して復旧します。システムを工場出荷時に 戻した場合、設定内容はすべて消去されますのでご注意ください。

参照 4-9 ページ「工場出荷時設定にリセット」

[Main Menu]->[System configuration]->[IP parameters]と進み、次の画面 を表示してください。

この画面では、SNMPやTelnetでシステムを管理するためのIPパラメーターオプ ションが表示されます。SNMPやTelnetを使用する場合は、最低、IPアドレスとサ ブネットマスクの設定が必要となります。

IP パラメーターの設定

lp address:	Null (not	configured)	
Subnet mask:	Null (not	configured)	
Gateway address:	Null (not	configured)	
Manager address 1:	Null (not	configured)	
Manager address 2:	Null (not	configured)	
Manager address 3:	Null (not	configured)	
Manager address 4:	Null (not	configured)	
Download Password: Get community string: Set community string: Trap community string: Location: Contact:	***** public private public Null (not Null (not	configured) configured)	
> Disable BOOTP Enable BOOTP			

- 1. 各オプションの頭文字を入力して、入力フィールドの「Null(空白)」、またはデ フォルト設定の文字をハイライト表示してください。
- Enterキーを押して「->」プロンプトを表示します。 アドレスの場合はX.X.X.Xの形式で、Xが0~255までの半角数字を「->」プロンプトに続けて入力し、Enterキーを押してください。 アドレスを「Nul(空白)」(何も設定されていません)に戻す場合は、0.0.0.0を入力して、Enterキーを押してください。 アドレス以外の場合は、各オプションの入力方法にしたがってください。

システム設定

Ip address

システムに割り当てるIPアドレスを入力します。



4

Telnet アプリケーションを使用して、リモートシステムへ接続しているときに、IP アドレスを変更しないでください。
 万一、このような操作を行った場合はリモートシステムをリセットしてください。

Subnet mask サブネットマスクを入力します。

Gateway address ルーターを介して、他のIPネットワークにパケットを送信する場合は、ゲートウェ イアドレスを設定します。

Manager address1 ~ 4 Trap メッセージを受信する SNMP マネージャーの IP アドレスを入力します。 Trap は、選択したマネージャーのみに送信されます。Trap を受信できるマネー ジャーを 4 つまで設定することができます。

Download Password TFTP によるソフトウェアダウンロードの際に入力するパスワードを入力します。 デフォルトは ATS38 です。 入力できる文字数は半角英数字で20文字までで、大文字・小文字を区別します。

Get community string Get に設定するコミュニティ名を入力します。 デフォルトは public です。 入力できる文字数は半角英数字で 20 文字までで、大文字・小文字を区別します。 SNMP community strings –
 SNMPコミュニティ名は、MIBにアクセスすることを認証するためのパスワードとして使用される任意の文字列です。
 SNMP(Version1)では、各リクエストにコミュニティ名を含めるように要求することで、セキュリティを確保します。
 コミュニティ名をベースにしたアクセスレベルは、一般的にパブリックおよびブライベートの2つに分けられます。
 SNMPパブリックコミュニティでは、MIBオブジェクトの読みとりのみ、SNMPプライベートコミュニティでは、MIBオブジェクトの読みとりと書き込みができます。

Set community string Set に設定するコミュニティ名を入力します。 デフォルトは private です。 入力できる文字数は半角英数字で 20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

Trap community string Trap に設定するコミュニティ名を入力します。 デフォルトは public です。 入力できる文字数は半角英数字で 20 文字までで、大文字・小文字を区別します。

Location

システムの物理的な場所を入力します。

入力できる文字数は半角英数字で64文字までです。

ここで設定した内容は、MIB-IIの<SysLocation>に反映され、SNMPマネージャー でシステムの設置場所を確認できます。

Contact

システム管理者を特定するための情報を入力します。

入力できる文字数は半角英数字で64文字までです。

ここで設定した内容は、MIB-IIの<SysContact>に反映され、SNMPマネージャー で管理者の名前や電話番号を確認できます。

Disable/Enable BOOTP

Enable

IP アドレスが設定されていない場合、BOOTP によりアドレスの取得を行います。

Disable BOOTPによるアドレス取得を行いません。

Trap パラメーター

Trap parameters menu

[IP parameter]の[Manager address]で設定した SNMP マネージャー1~4への Trap 送信制御を設定することができます。

[Main Menu]->[System configuration]->[Trap parameters]と進み、次の画 面を表示してください。



この画面の各Trapの設定は0~15(10進数)の数値で行います。設定値は各マネージャーの合計値を入力してください。

Trap送信先	16進数	10進数
マネージャーアドレス1	0001	1
マネージャーアドレス2	0010	2
マネージャーアドレス3	0100	4
マネージャーアドレス4	1000	8

[Change Port Link]Trap をマネージャー 1 とマネージャー 3 のみに送信する場合: 1(マネージャー 1)+ 4(マネージャー 3)= 5 [Change Port Link]の項目に 5 と入力します。

参照 4-15 ページ「Trap 一覧」

ターミナル設定

Terminal configuration Menu

接続するコンソール(ターミナル)に対応する設定を行います。

[Main Menu] -> [System configuration] -> [Terminal configuration]と進み、 次の画面を表示してください。



各オプションを上から順に説明します。

Full duplex(echo)/Half duplex(no echo) キー入力のエコー表示を行うかどうか設定します。 デフォルトは「Full duplex(echo)」です。

Data rate("baud" rate)... このオプションを選択するとボーレート(ポートの通信速度)を設定する画面に移動 します。

デフォルトは、「9600 bps」です。

3 マネージメントメニュー

4

付 録

この章では、ソフトウェアのバージョンアップ手順、トラブル シューティング、製品仕様について説明しています。

1 バージョンアップ手順

ソフトウェアのバージョンアップ方法は、XModemを使用する方法と、TFTPを使用する方法の2種類です。

XModemは、コンソールからローカル(RS-232経由)でソフトウェアにアクセスしている場合に、メニューを使用して簡単にダウンロードできます。TFTPではネットワーク上のシステムに短時間でファイル転送ができます。

1 XModem を使用したアップグレード方法

コンソールからローカル(RS-232経由)で、ソフトウェアにアクセスしている場合、 「XModem software update to this port」メニューオプションを使用して、新しい バージョンのソフトウェアを簡単にダウンロードできます。

ここでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして、「ハイパーターミナル」を使用している場合のファイル転送方法を説明をします。

用意するもの

ダウンロードするイメージファイル(MBM01.bin) コンソール(Windows 95/98/Me/2000、Windows NTが動作するコンピュー ター) MBM01(本製品) RS-232 ケーブル(本製品付属品)

ダウンロード手順

 コンソールの RS-232 コネクターと MBM01 前面のターミナルポートを RS-232 ケーブルで接続してください。

🏂 🛯 1-7 ページ「ターミナルポートの接続」

- 2. コンソールおよび MBM01(MBRK16-10/80)の電源を入れてください。
- 3. ハイパーターミナル(Hypertrm.exe)を設定してください。「2基本操作」を参考にしてください。

▶ 2-5 ページ「ハイパーターミナルの設定手順」

4. Enterキーを押し、メインメニューを表示してください。

録

5. System administration メニューから、XModem software update to this port メニューオプションを選択してください。次の画面が表示されます。



XModem によるダウンロードを行うかどうかの確認メッセージが表示されます。

図を入力して実行してください。
 次の画面が表示されて、ダウンロード待ち状態になります。



1

7. [転送]メニューから[ファイルの送信]を選択してください。



8. 「ファイルの送信」ウィンドウが表示されます。

[ファイル名]欄にイメージファイル名を入力して、「プロトコル」欄はプルダ ウンメニューから「Xmodem」を選択してください。

[送信]をクリックしてください。

ミキファイルの送信			? X
フォルダ: C:¥			
ファイル名(F):			
C¥Mbm01.bin			●朔(B)
プロトコル(P):			
Xmodem			¥
	送信(S)	- 開じる(<u>C</u>)	キャンセル

[送信 をクリックすると、次のような画面が表示されて、ファイル転送を開始 します。

Xmodem 77	ル送信 - XXXX	
送信中:	C:¥Mbm01.bin	
ለ*ታット :	122	エラー チェック : CRC
再試行:	0	再試行の回数: 0
最新のエラー	-:	
ファイル :		54K / 256K
経過時間	: 00:01:19	残り: 00:11:08 スループット: 690 cps
		キャンセル cps/bps(<u>C</u>)

ファイル転送が正常に終了すると、マネージメントソフトは自動的にリセット します。

セルフテストが終了後、画面上に「(press RETURN to enter Main Menu)」 9. と表示されたら、Enterキーを押してください。 メインメニューが表示されます。 以上で、ダウンロード作業は終了です。



[Administration]メニューから[Diagnostics]メニューオプションを選択する と、ソフトウェアバージョンを確認できます。



▶ 不具合等の発生でダウンロードが失敗した場合は、本体前面のRESETボタン を押すか、電源ケーブルを接続しなおしてシステムをリセットします。 リセットした後に、System diagnostics(拡張システム診断テスト)が実行 される場合があります。その場合は X を入力して [X: XMODEM download updated System Software]オプションを選択し、再度ソフトウェアのダ ウンロードを実行してください。

TFTP を使用したアップグレード方法 2

TCP/IPネットワークのシステム間では、TFTPを使用するとソフトウェアを短時間 でダウンロードすることができます。

ここでは、TFTPアプリケーションを使用して、ローカルホスト(PCまたはワークス テーション からリモートホスト(MBM01) ヘイメージファイルをコピー(Put) する方 法を説明します。

用意するもの

1

ダウンロードするイメージファイル(MBM01.img) TFTP アプリケーションが実行できるコンピューター MBM01(本製品)

ダウンロード手順

ローカルホスト(コンピューター)およびMBM01に、IPアドレスが設定されている こと、またローカルホストとMBM01が、ネットワーク上で通信可能な状態にある ことを確認し、以下の手順でダウンロードを実行してください。

1. ローカルホストの TFTP クライアントから put を実行してください。

TFTPアプリケーションのプラットフォームは、GUIを持ったものや、コマン ド入力が必要なものなどさまざまです。TFTPアプリケーションの使用方法に ついては、マニュアルなどをお読みください。

一般的なコマンドラインは次のようになります。 tftp <direction> <local_file> <host> <remote_file> <mode>

<direction></direction>	put を指定します。
<local_file></local_file>	イメージファイル名を指定します。
<host></host>	リモートホスト(MBM01)のIPアドレスを指定します。
<remote_file></remote_file>	MBM01 に設定されているダウンロードパスワード
	(Download Password)を指定します。
	ダウンロードパスワードのデフォルトは「ATS38」です

0

参照 3-24 ページ「IP パラメーター - Download Password」

バイナリー転送モード(octet、image など)を指定します。 <mode>

ファイル転送が正常に終了すると、数秒後、マネージメントソフトは自動的に リセットします。



、このとき、リセット(本体前面のRESETボタンを押す/電源ケーブルを抜く) しないでください。

本体がリセットされ、セルフテストの経過が画面に表示されます。

2. 画面上に「(press RETURN to enter Main Menu)」と表示されたら、Enterキー を押してください。

メインメニューが表示されるとダウンロード作業は終了です。



[Administration]メニューから[Diagnostics]メニューオプションを選択する と、ソフトウェアバージョンを確認できます。



2 **デフォルト設定**

モジュール設定		
オートネゴシエーション機能	初期化直前の設定が有効	
モジュール名	Null*	
ミッシングリンク機能 初期化直前の設定が有効		
システム管理		
アクティブモニター Null		
ログ保存の開始・停止	Start Log	
システム設定		
システム名	Null	
Omega Options		
パスワード	Null	
タイムアウト	5 (minutes)	
ローカルアクセス	Enabled	
リモートアクセス	Enabled	
IPパラメーター		
IPアドレス	0.0.0.0	
サブネットマスク	0.0.0.0	
ゲートウェイアドレス	0.0.0.0	
Downloadパスワード	ATS38	
vステム名 Null		
システムContact	Null	
システムLocation	Null	
Get Community String	public	
Set Community String	private	
Trap Community String public		
воотр	Disable	
Trapパラメーター		
Cold start	15 (Manager1,2,3,4)	
Warm start	15 (Manager1,2,3,4)	
Authentication	15 (Manager1,2,3,4)	
Change Port Link	15 (Manager1,2,3,4)	
Module Insertion/Removal	15 (Manager1,2,3,4)	
Link Test	15 (Manager1,2,3,4)	
Loop Back Test	15 (Manager1,2,3,4)	
Fan	15 (Manager1,2,3,4)	
Over-Temperature	15 (Manager1,2,3,4)	
Change PSU Status	15 (Manager1,2,3,4)	
ターミナル設定		
エコー表示	Full duplex (echo)	
ボーレート	9600(bps)	

* それぞれのモジュールの製品名(MBMC115B、MBM01など)が入ります。

工場出荷時設定にリセット

設定内容を消去し、システムをデフォルト設定に戻します。

- 本製品のターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクターを接続してく ださい。
- 参照 1-7 ページ「ターミナルポートの接続」
- 2. 電源ケーブルを接続しなおすか、本体前面のRESETボタンを押してください。
- 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software...」と表示されている間(5秒以内)に、任意のキーを押して、拡張システム診断メニュー (System Diagnostics)を表示してください。



- 4. 「->」プロンプトに続けて、回を入力し、[D: Restore all configuration data to factory defaults]オプションを選択してください。
- 5. 「WARNING:~」という確認のメッセージが表示されたら、図を入力してください。
- 「->」プロンプトに続けて、Bを入力し、[B: BOOT System Software]オプションを選択してください。
- セルフテストが実行されて、その経過が画面に表示されます。最後に「(prees RETURN to enter Main Menu)」と表示されたら、Enterキーを押してください。 メインメニューが表示されます。



▶ 工場出荷時にリセット中、およびBoot中は、電源プラグを電源コンセントから抜かないでください。

ポート設定切替スイッチの設定 3

MBRK16-10/80にMBMC115BとMBM01を装着した場合のMBMC115Bのポー ト切替スイッチとMBM01マネージメントメニューの設定の優先度は次の表のとお りです。

表の の設定が優先されます。

	MBMC115B ポート設定切替スイッチの設定	MBM01 マネージメントメニューの設定
MBRK16-10/80にMBMC115Bを装着したとき		
MBRK16-10/80に装着したMBMC115Bのディッ プスイッチで設定を変更したとき		
マネージメントメニューで設定を変更したとき		
MBMC115Bを挿抜したとき		
MBRK16-10/80の電源をオフ/オンしたとき		
MBM01を挿抜したとき		
MBM01を(メニュー/RESETボタンで)リセットし たとき		
MBM01を工場出荷時設定にして、(メニュー/ RESETボタンで)リセットしたとき		

MBMC115B 前面パネル



ポート設定切替スイッチ AUTO ON/OFF ML ON/OFF

AUTO ON/OFF オートネゴシエーション機能の設定 ML ON/OFF ミッシングリンク機能の設定



参照 3-4 ページ「モジュールコンフィグレーション」

4 トラブルシューティング

本製品を使用中に発生したトラブルへの対処法について説明します。

セルフテストについて

本製品は、セルフテスト機能(自己診断機能)を備えており、万が一異常が発生した 場合、そのテスト結果を本体内蔵のソフトウェア「Administration」メニューの 「Diagnostics」画面に表示し、異常の内容に応じて動作を制御します。

参照 3-15 ページ「システム診断」

セルフテストの実行 セルフテストは次の場合に実行されます。 電源を投入したとき 本体前面の RESET ボタンを押してリセットしたとき 本体内蔵のソフトウェアによってリセットしたとき 致命的なエラーによって自動的にリセットしたとき

テスト項目

テスト結果に表示されるセルフテスト項目は次のとおりです。

テスト項目	結果	状態
Flash PROM	Good	Flash PROMに異常はありません。
	Failed	Flash PROMに異常があります。
RAM	Good	RAMに異常はありません。
	Failed	RAMに異常があります。
Serial Interface	Good	シリアルインターフェースに異常はありません。
	Failed	シリアルインターフェースに異常があります。

イトロークローク

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該 当の説明をお読みください。

LED 表示の確認

本製品の状態を表示します。

LED		色	状態	表示内容	
POWER		緑	点灯	電源がMBRK16-10/80に正しく接続され、MBM01へ正常に供 給されています。	
			消灯	MBRK16-10/80または、MBM01へ正常に電源が供給されてい ません。	
STATUS		緑	点灯	MBM01本体、またはソフトウェアが正常に動作しています。	
		橙	点灯	セルフテストを実行中です。	
			点滅	ソフトウェアのダウンロード中です。	
		赤	点灯	MBM01本体、およびソフトウェアに異常があります。	
10BASE-T	COL	黄	点滅	コリジョンが発生しています。	
	RX	緑	点滅	10BASE-Tポートがパケットの受信を行っています。	
	LNK	緑	点灯	10BASE-Tポートのリンクが確立しています。	

電源を投入したが、POWER LED が点灯しない

MBRK16-10/80のPOWER LED は点灯していますか。 点灯していない場合はMBRK16-10/80に付属のマニュアルを参照し、確認してください。

MBM01がMBRK16-10/80に正しく装着されていますか。

ネットワークケーブルを接続しても LNK LED が点灯しない

接続先の機器に電源は投入されていますか。

接続先の機器に障害はありませんか。

接続先の機器の通信モードは本製品と通信可能な組み合わせに設定されていま すか。

10BASE-Tポートの通信モードはHalf Duplexです。

参照 1-8 ページ「10BASE-T ポートの接続」

本製品のカスケード切替スイッチは正しく設定されていますか。 ストレートケーブルを使用して、本製品とリピーターやスイッチをカスケード接続する場 合は、本製品の10BASE-Tポートと他のリピーターやスイッチの10BASE-T/100BASE-TXポートを接続してください。その際、カスケード切替スイッチはMDIに設定してくだ さい。

参照 1-8 ページ「10BASE-T ポートの接続」

正しいUTP ケーブルを使用していますか。 10BASE-Tポートにはカテゴリー3以上のUTP ケーブルを接続してください。

UTP ケーブルの長さが制限を越えていませんか。 10BASE-Tの場合、ケーブル長は最大100mと規定されています。

5 SNMP MIB 仕様

対応 MIB OBJECT 一覧

MIB- (標準 MIB)

system group

interface group

at group*

ip group*

icmp group*

tcp group*

udp group*

snmp group*

*MBM01 マネージメント用ポートにおいて適応

Private MIB

module config group MBMC115B ステータスの取得と設定 / テストの実行

administrator group 機器診断など、MBM01 固有のステータス

system config group MBM01のネットワークパラメーターなど

付録

Trap 一覧

Trap	発生要因		
Cold Start	MBM01ブート: 電源投入時		
Warm Start	MBM01ブート: ソフトウェアリセット時		
Authentication Fail	未登録のSNMPマネージャーからのアクセス時		
Port Link Up	メディアコンバーターモジュール(MBMC115B)のポートの リンクアップ時		
Port Link Down	メディアコンバーターモジュール(MBMC115B)のポートの リンクダウン時		
Module Insertion	メディアコンバーターモジュール(MBMC115B)の挿入時		
Module Removal	メディアコンバーターモジュール(MBMC115B)の抜粋時		
Loop Back Test	ループバックテストコマンド(MBMC115B - LBMC115A 応答試験)実行後の結果		
Fan Stop	ファン 回転停止時		
Fan Recover	ファン 回転回復時		
Main PSU On	主電源からの電源供給開始時		
Main PSU Off	主電源からの電源供給停止時		
Redundant PSU On	リダンダント電源モジュールからの電源供給開始時		
Redundant PSU Off	リダンダント電源モジュールからの電源供給停止時		
Link Test	Link Test(missing link mode)コマンド実行時結果		
Overtemperature	温度異常時		

コネクター / ケーブル仕様

ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件 や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

10BASE-Tインターフェース

RJ-45型のモジュラージャックを使用しています。

	コンタクト	MDI-X信号
	1	RX + (受信)
	2	RX - (受信)
	3	TX + (送信)
5678	4	未使用
	5	未使用
	6	TX-(送信)
	7	未使用
	8	未使用

1234 -----

RS-232 インターフェース MINI-DIN 8 ピン(メス)タイプのコネクターを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	NOT USED	未使用
2	DTR	データ端末レディ
3	ТХ	送信データ
4	RX	受信データ
5	DSR	データセットレディ
6	SG	信号用接地
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
本製品の仕様

サポート規格	
	IEEE 802.3 10BASE-T
環境条件	
保管時温度	-20~60
保管時湿度	95%以下(ただし、結露なきこと)
動作時温度	0 ~ 4 0
動作時湿度	80%以下(ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	64(W)x131(D)x22(H)mm
重量	
	約100g
サポートするMIB	
	MIB- (RFC1213), Private MIB



5

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調 査依頼書のご記入方法について説明します。

保証とユーザーサポート

保証

1

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客 様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォ メーション登録係」までご返送ください。

「ユーザー登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障 害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する 被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれら に限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書を(拡大) コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

- Tel: 00 0120-860-772 祝・祭日を除く月~金曜日 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 18:00
- Fax: 0120-860-662 年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。 ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場 合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。 なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウエアについて

製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してくだ さい。

シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例) S/N 0047744990805087 Rev A1

ソフトウェアバージョンを記入してください。

ソフトウェアバージョンは、「Administration」メニューの「Diagnostics」に て表示されます。

お問い合わせ内容について

どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来 る限り具体的に(再現できるように)記入してください。

エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセー ジの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単 な図を添付してください。

他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入 ください。

